

		反省と課題	次年度への改善策と要望等
1	教務部	1 基礎学力の定着を図る (1)学習ガイダンスの実施 各学年ともに年度当初に学習ガイダンスを実施した。2・3年生へのガイダンスは昨年度試験的に始めたが、今年度も実施した。学習への取り組みを促すきっかけとして意味があった。 (2)学習の習慣化の支援、学習に取り組む姿勢の育成 教務としての取り組みはあまりできなかった。生活時間調査を行っている進路指導部や学年との連携が課題である。 2 主体的な学習態度を育てる研究と実践 (1)教育課程の研究 昨年度改革した教育課程編成の流れをふまえ、今年度も実施した。教育課程運用上の課題を克服していきたい。 (2)授業の工夫・改善、指導力向上を図る 昨年度の教員研修の流れをくみ、互見授業を推奨、AL研修の伝達講習を行った。授業研究の気運をさらに高める工夫をしたい。 (3)学習支援の充実 習熟度別の講座編成や学習支援員の活用など、生徒の学習支援態勢を整えた。さらなる有効な活用方法の検討を進めたい。 3 地域との連携、開かれた学校づくり (1)郷土理解活動の支援 1学年で農林業体験、2学年で職場体験の学習を実施し、地域社会との連携を深めた。 (2)開かれた学校づくり 昨年度の広報誌「湧雲」の低コスト化を引き継ぎ、今年度も制作した。学校パンフレットの内容やレイアウトを研究し、改良した。	1ー(1) 学習ガイダンスについては年度当初だけでよいのか、年度途中でも必要に応じて適宜実施するかなど、学年や教科と検討したい。 1ー(2) 授業に取り組む姿勢については、上記学習ガイダンスに反映させたい。また、家庭学習の習慣化を促す取り組みを支援したい。とくに大学進学を目指す生徒の学力養成に手を入れたい。 2ー(1) 教育課程編成の変更に伴って、学校設定科目の整備を実施する。また、新教育課程の導入に向けて、本校として望ましい編成の研究を進めるとともに、原案を検討する組織についても確認する。 2ー(2) 今年度推奨した互見授業もよいが、AL教員養成研修などで学んだ取り組みなどを参考にして、授業改善のための研修の気運を高める取り組みを実施したい。 2ー(3) 生徒の学力向上のための望ましい支援態勢について、引き続き考えていきたい。 3ー(1) 総合的な探究の時間へ移行していく今後に向けて、従来の学習を深められるように研究していく。 3ー(2) 学校活動の広報という点では、学校HPや湧雲などをさらに効果的に活用できるように改善していく。
2	生徒指導部	1. あいさつ、時間厳守等の基本的な生活習慣の育成 ・思春期特有の悩みからくる問題に対処すること、また、いじめを防止することから、生徒が落ち着いて学校生活を送るための支援や人の立場に立った考えが持てる行動への助言・言葉遣い、頭髮・服装など、細かく指導を行った。身だしなみの指導については、各学年で生徒の様子に即した指導を行った。あいさつの励行については、全体的に薄れているようである。 2. 交通マナーを守る安全な自転車・原動機付自転車による通学 ・例年通り実技指導を行ったが、原付の事故が発生した。 3. インターネットや携帯電話のマナーやルールの学習と実践 ・全体集会時の講話に内容を織り交ぜ、指導を行った。また、1・2学年では講習会を実施した。 4. 個々の生徒を支援するための教育相談体制の整備 ・保健厚生部・担任と連携をとり、SCによるグループカウンセリングを行い、問題解決の糸口を探ることができた。 5. 生徒の自主的活動を通じ、自主的、実践的な態度や能力を育成する ・部活動顧問会で生徒活動を見守るよう呼びかけた。	1. 全校集会での講話等で、命の大切さや他人を思いやる心について呼びかけ、南会津高校生として更なる自覚を持ち、自己の成長へつなげるための支援や意識付けを行う。身だしなみについては、ほとんどの生徒が場や状況に応じて適切に整えることができていたが、特に事前指導を行うことで指導を効果的なものにした。あいさつについては、再度教員ともども励行に努めていく。 2. 引き続き交通安全指導を行うことはもちろん、生徒から通学路の状況を聞く、生徒に危ないと思ったら車体から降りるように指導する、など手だてを行う。 3. 各学年と連携をとり、指導部では全体的な講習会を実施し、生徒への指導を効果的なものにする。 4. 生徒の様子をみて、生徒の心情について教員間で連携をとって把握し、指導に当たる。また、引き続き、生徒が相談できる雰囲気づくりに努める。 5. 生徒自身の活動をしっかり行うよう指導することが必要である。また各部の活動について指導部も携わるようにしていく。

3	進路指導部	＜個に応じた指導＞ ①各学年ともに、随時二者・三者面談を行い、個に応じた進路指導に配慮したが、回数や時期に不満の声が一部保護者にあった。進学では、四大受験者が推薦・AO入試で第一希望にこだわり積極的な受験ができた。就職では、担任と保護者・本人との相互理解が十分に得られないままの受験や本人の心身の不調による未受験があり残念だった。 ＜スペシャリスト育成ミッション支援事業＞ ②「スペシャリスト育成ミッション事業」の計画に基づき、各行事をほぼ予定どおり実施できた。また、年間計画外で放課後等に外部講師（ハローワーク・警察署・進路アドバイザー・専門学校・進路業者等）による無償のガイダンスを弾力的かつ有効に活用し生徒の進路実現に役立てた。 ＜進路指導行事の計画と実践＞ ③進路希望に応じて面接・小論文指導の全体計画を立て、職員全体で取り組めた。また、個に応じた個別添削指導・個別学習指導も適宜実施できた。各種講演会・体験学習・職業人講話等により、職業観・勤労観を深めた。1・2年生の四大進学希望者が減少し就職希望者が増加。さらに学習時間の減少も顕著であり、今後の進学意識の高揚・意識づけが課題である。大学入試共通試験対策は急務だが、不確定要素が多く、全体計画の作成・始動は時期尚早。 ＜学力向上＞ ④全体的に基礎学力の定着・向上は不十分。特に要の教科英語の学力不足は例年以上に大きな課題。よって、センター試験の成績は偏差値50及び全国平均を下回る生徒がほとんどである。センター・私大入試で勝負できる英語の基礎力等を高める手立てが必要。資格試験合格者は減少傾向にあり、受験で有効活用するためにも四大進学希望者の2級合格者数を伸ばすことが重要である。定期考査では大学進学希望生徒に相応しい結果を残せない3年男子生徒が目立った。 ＜進路学習室等の施設の活用＞ ⑤進路資料室は受験手続書類や受験資料の保管、情報誌・資料の閲覧、自習に、進路学習室は願書閲覧、補講、自習、ガイダンスに、進路指導室は来客（学校・企業・進学者等）対応に、職員室前廊下の長机及び放送室は個別面談、個別指導、自習に有効に使用できた。 ＜進路情報・進路資料の発信・提供＞ ⑥進路便り・学年便りの定期的な発行による進路情報・学校情報の提供及び進路資料等の提供により、保護者・生徒の進路情報の把握と進路意識の高揚を図った。学校評価では進学校に比べ情報提供不十分という声もあったが、進路情報の提供をこれ以上要求されても難しい。逆に進路資料（進路情報誌等）の精選配付と生徒が進路・学年だより等を保護者へ確実に見せるように随時促す必要がある。	①担任と生徒・保護者の進路面談を徹底し、担任の的確な指導・助言により、早めに受験計画を立て、受験準備・学習を迅速に進めることが大切となる。また、保護者面談は保護者の要望を確認し回数や実施時期に配慮する。特に面談では、進路指導の原則を伝えそれを厳守してもらうこと、生徒の適性や学力に応じた進路選択・学校選択を指導助言することで保護者との共通理解を図る。 ②次年度も、当該プロジェクトへの参加は本校にとって予算上必要不可欠であるため、継続参加をめざしたい。職業人講話では活躍している県内企業経営者やOBを講師として積極的に招きたい。課外や集中学習会では、より効果的な時間割・クラス編成及び講師の選定をさらに検討・実施していきたい。他校参観により指導法を学び、かつ意見交換で情報を得て、教科指導力の向上につなげる。 ③例年四大進学希望者のほぼ全員が推薦・AOを受験するため、面接・小論文指導のさらなる検討・改善を図る。1・2年生から、推薦AO、センター・私大入試の概要把握、オープンキャンパスへの参加等により、合格へのモチベーションを高め、具体的な受験計画の確実な実践が必須。特に1年生及び保護者には、大学入試共通試験に向けた受験対策を周知徹底する必要がある。新制度の受験情報を迅速かつ確実に把握し、ポートフォリオ等具体的な受験指導を速やかに進めたい。 ④学力向上には、復習中心の家庭学習の習慣化、学習方法（教材・学習計画）の把握、向学心・上昇志向・進学意識の高まりが必須課題。課題の計画的な提示や課外により学力の向上を図り、国公立大難関私大一般入試の合格者を増やすことは第一目標だが、本校生徒の実態を考えると、国公立大推薦AO受験者の一般入試での受験科目選択の見極めを担任が助言する必要がある。資格試験は今後入試での重要度がいっそう増すため、2級以上の資格取得を積極的に促す。進路未定者を含め1年生の進学意識を高め大学進学希望者を増やす。読書の習慣化で読解力・語彙力を高め、希望分野の読書量を増やして知識を磨く。 ⑤進路資料室のレイアウト・使い方は、新3年の意向に一任する。次年度も進路学習室は願書閲覧、補講、自習、ガイダンス等に有効利用する。放送室の使用は、原則控える。ただし、プライバシー厳守の個別面談や必要性の高い個別指導の場合のみ使用する方向で要望したい。3年生は、放課後における進路別の教室以外の学習部屋の確保・選別に配慮していく。 ⑥進路便り・学年便りの発行及び進路資料の配付により、保護者・生徒の進路意識の高揚を図り、進路選択・決定の参考となるように厳選した進路情報（進路資料・進路情報誌等）を提供する。また、進路・学年だより、進路資料等を生徒が保護者に確実に手渡すように随時促していく。
---	-------	---	---

4	保健厚生部	1 健康教育や心の教育への支援 ○学期ごとの保健指導の実施、保健だよりの発行により生徒への基本的な生活習慣の維持改善についての指導や職員会、打合わせ等で教職員と生徒の健康状態等の情報の共有を図り連携しながら取り組むことができた。 ○学年と連携を密にとることで生徒の心の健康問題への早期対応、SCの有効活用を図ることができた。 ○定期的に保健委員会を開催することができた。 2 学習環境の整備と美化 ○大掃除、校舎内外清掃を計画的に実施し、保健委員会による二回の清掃点検結果をもとに校内美化に努めた。 ●生徒の勤労意欲や清掃能力には差が見られ、清掃が行き届いていない場所があった。 ●ごみの分別等については、分別されていない場面があった。 3 学校災害の絶無と安全教育の徹底 ○防火組織について年度当初の確立を行ったほか、防火避難訓練も予定通り実施できた。 ○教職員対象AED講習会や2学年では救命講習会の実施。	○生徒の健康状態等で気になる点が見られた際は、朝の打合わせ、職員会等で教職員へ周知を図り、様々な立場からの生徒への注意喚起・早期対応を図っていく。 ○面談やカウンセリングを通して生徒の状況を把握することができた。次年度も継続してグループカウンセリングを実施するとともに、生徒指導部とも連携を図るよう、早期対応につなげていく。 ○保健関係行事、感染症対策等で今後も様々な活動に取り組んでいけるよう指導していきたい。 ○普段から清潔な状態を維持できるよう指導を徹底し、学期ごとに清掃点検を実施する。 ○保健委員会による清掃点検の結果をもとに、生徒の清掃方法が維持・改善するよう、具体的な清掃指導、清掃時間の確保など教職員に協力を仰いでいく。 ○夏場を中心にきちんとごみの分別をするよう適宜呼びかけていく。 ○実施後の反省をもとに、次年度の避難訓練の実施はもちろんのこと、万が一の場面に生かせるように教職員へ周知を図っていく。
5	図書部	【図書館の整備】 (1)分類表示の改善や書架の整理が課題である。まとまった時間がとれず、整理を終わらせるまで進めることができなかった。次年度は長期休業を活用し、開架図書の設置に向け、定期的な整備を努めて行う。 (2)購入図書選定作業の促進が課題である。次年度は、図書購入の1回目を夏休み前後に行い、新規図書の早期配架に努める。 (3)定期的な委員会活動により、図書委員生徒の責任感の育成と仕事内容の充実を図ることができた。 【図書館の利用促進・読書の奨励】 (1)図書館ガイダンスや図書館報の作成などにより、生徒の利用の促進を図った。開館時間延長希望などの声があったが、図書委員としての活動時間が限られているため、図書担当の教員が適宜対応するなどしたい。 (2)校内朗読コンテストを行い、本に親しみ、さまざまな形で本を楽しむ機会を持たせるようにした。校外においても生徒の成果を生かせる場所を模索したい。 【学習施設としての充実】 (1)放課後の学習場所や進路関係のガイダンス会場としての活用により、生徒の学習場所として一定の効果をあげることができた。特に2学期には、学習施設としての利用が増えた。3年生においては、2月の自宅学習期間に入っても受験勉強及び入学前課題学習の場所として活用されている。然しながら、時期によっては、図書館が憩いの場になっている様子も見られた。	(1)早期の図書整理を次年度の課題としたい。分類表示ごとの書架の整理作業日を設け行い、生徒が利用しやすい環境作りを継続して行う。 (2)新着図書の配備にかかる時間の短縮に努め、定期的な図書購入を実現させる。また、生徒・教員へのアンケートを実施し、バランスの良い図書購入を行う。新着図書の配備作業効率化のため、原簿管理用のパソコンを司書室もしくは図書室に配備してほしい。 (3)新聞整理業務については、新聞ラックを購入し、業務の簡素化を実現することができた。 (1)図書委員会の生徒の活動を中心として、引き続き利用促進を図っていきたい。会館朝の読書の本選定での利用の呼びかけを行う。また、学年ごとに設定した図書室利用促進月間の周知と、学年のニーズに合わせた配架を行う。また、秋に本校独自のアンケートを行い本校生の読書活動の実態を把握する。 (2)放送委員会と協力し、運営方法の洗練を図る。放送でのトラブル対応として、各階への人員配置など検討する。また、朝の読書の時間を活用して練習時間の確保に努め、放送コンテスト、ビブリオバトル等を視野に入れた技術の向上を図る。 (1)生徒および教員へのアンケートの結果を反映させ、進路指導部と連携を図り、更なる進路関係書籍の充実を努める。資格試験、検定試験、小論文、面接対策の書籍のコーナーを充実させたい。放課後の図書館利用については、学年と連携して図書館の利用についてのマナーを共有したい。

6	寮務部	1. 自立した生活を送れるように生活習慣を身につけさせる。 ・寮の申し合わせ事項を遵守し、比較的規則正しい生活を送れた。 2. 学習習慣を身につけさせる。 ・定期考査前には、各自に勉強に取り組めるようになってきた。 3. 美化意識を高めさせ、施設の保全に努める。 ・通常の清掃時に、寮長・副寮長が確認をすることで美化意識を高めることができた。 ・昼食の弁当の後片付けや箸の片づけを忘れる場合があった。 4. 家庭の理解と協力を図る。 ・生徒の欠席等で入寮しない場合は、各担任との連絡を密にしていた。 ・寮費の納入については、特定の生徒が遅れる場合があった。 ・冬季間の日曜入寮について、2月からは開寮をしなくなり、当初の予定と比べ、大幅な変更になった。 5. 舎監全員の共通理解を図る。 ・舎監日誌への記載や口頭での引継により、生徒の生活や健康管理の面で円滑に対応することができた。 ・SCとも連携し、面談やカウンセリングを通して、寮生の状況を把握することができた。 ・今後も舎監日誌を活用し、円滑な寮務運営ができるように留意する。 ・SCによる寮生に対するカウンセリングを実施し、寮生活の不安などの解消に役立ったので次年度以降も継続していきたい。 6. 寮生相互の交流を図る。 ・業者の協力で教員と一緒に食事会を開くことができ、親睦を深めることができた。 ・食事会などの行事を通して、寮生同士や教員との親睦を深めることができたので、次年度も継続していきたい。	1. 寮長・副寮長を中心に寮生たちが自主的に行動できるように継続して指導していきたい。 2. 定期考査時の食堂での学習の方法に改善点が出てきたので、寮生に使用方法を指導していきたい。 3. 通常の清掃の徹底や居室を清潔に保つことを継続して指導していく。昼食時の後片付けや当番の仕事を継続して指導していく。 4. 寮費について、納入期日を教員側が把握できるように朝の打合せ等を利用する。生徒の入寮しない場合の動向を、今後も学年と寮務部相互の連絡を密にする。寮費の納入が遅れた場合は、寮務部会計・寮務部主任が担任と連携し、速やかに納入できるように促す。冬季間の日曜入寮については、生徒と保護者と詳細を事前に確認できるようにする。 5. 今後も舎監日誌を活用し、円滑な寮務運営ができるように留意する。SCによる寮生に対するカウンセリングを実施し、寮生活の不安などの解消に役立ったので次年度以降も継続していきたい。 6. 食事会などの行事を通して、寮生同士や教員との親睦を深めることができたので、次年度も継続していきたい。
7	情報技術部	1 校内LANの適切な運用 校内LANについては大きなトラブルもなく、円滑に運用できた。また、共有フォルダについてもきちんと整理されている。FACE導入に向けて、フォルダの整理を行う。 2 情報機器の保守・点検 生徒用にPCの不具合が発生した。生徒用については迅速に対応し、円滑に運用できた。次年度、生徒用のPCの更新があるので、適切に対応する。教員用に関しては、新PCに移行していないものの移行を完了させたい。また、FACE導入に向けての整備が完了していないので完了を目指す。 3 迅速かつ正確な情報発信を行う 緊急メールの登録は全体の9割の登録が完了した。ウェブサイトの更新は校長先生の協力のもと昨年度よりは多くできた。	1 引き続き校内LANの運用を適切に行っていききたい。また、FACE導入に向けて、データの整理を呼びかけていきたい。IPアドレスについても使用者を確認したので、次年度へ引き継ぎたい。 2 教員用PCの交換に伴い、情報機器の処分についても事務部と協力して行っていききたい。生徒用のPCの更新についても事務部と協力し行っていききたい。FACE導入に向けての準備、フォルダの整理等適切に進めていきたい。 3 未登録者、新入生への緊急メールの登録を引き続き呼びかけていきたい。年度始めに計画を立て、係分担をし、適切にウェブサイトの内容の充実に努めたい。

8	第1学年	【学習指導】 基礎学習課題を週末に課すことで家庭学習の習慣化を図った概ねの生徒が期日を守って提出した。手帳を活用することで、学習目標や進路目標を考えさせることができたが、活用できていない生徒もあり今後の課題である。 【生活指導】 挨拶、時間厳守等の基本的な生活習慣を行事や日常生活の中で身につけさせることがほぼできた。 【進路指導】 個別面談、総合的な学習の時間LHRの時間、模試等を活用することで、進路や適性を確認することができた。農林業体験を通して地域とキャリアについて理解させることができた。	1. 基礎学習を手帳を活用し生徒自身が管理できるように指導する。面談等の個別指導の機会を増やす。 2. 今後も日常生活や行事等で辛抱強く継続的に基本的な生活習慣を身につけさせていく。また、上級生と比較してあいさつの声が小さい等不十分な所が見られるため、意識して改善していきたい。 3. 個別面談や模試等を活用し継続的に進路を見通した学習活動の基礎を身につけさせる。進路指導部の進路だよりを活用して進路について考えさせていく。
9	第2学年	【学習指導】 主体的に学ぶ力を育てる。 →生徒一人一人の目標を学年団で把握することができたが、それに応じた指導は充実させることはできなかった。 →手帳を活用し、家庭での学習を習慣化することができた。しかし、一部の生徒を除き全体的に学習時間は十分ではなかった。今後2時間以上の家庭学習習慣と学習の質を高めさせていきたい。 【生活指導】 基本的な生活習慣を身につけ、健全な心身と相手を思いやる心を育てる。 →基本的な生活習慣は1年次に比べ身につけてきていると感じる。前半には気のゆるみから身だしなみ等の乱れも多少みられた。後半ははじめと規律ある行動がとれてきたように感じるが、継続的に指導していかなければならない。 →SNS利用時の危険性を理解していない生徒が多いため情報モラル教室を行った。今後も継続的にSNSについての指導を徹底していきたい。 【進路指導】 個に応じた進路指導の充実と進路選択の能力を育てる。 →個人面談を行い進路志望の決定を進めることができた。年度末には三者面談を実施し全員の進路決定をしていきたい。 →職場体験を通して進路意識を高めさせることができた。	【学習指導】 →生徒一人一人の目標に応じた指導を充実させる。 →手帳を活用し学習計画と目標を立てさせる。 →4大志望者への学習指導(英・数・国等)を充実させる。 →小論文指導を国語科を中心に他教科の教員の協力を得ながら計画的に実施する。 【生活指導】 →最終学年としてけじめと規律のある行動をとれるように指導して行く。 →相手の気持ちを考え行動できるように指導して行く。 →SNSについての危険性等を指導部と協力しながら継続的に指導して行く。 【進路指導】 →個人面談や三者面談を適宜実施し、進路指導を充実させる。 →早期の出願指導を計画的に実施する。 →就職・進学に必要な情報提供を確実に行う。
10	第3学年	【学習指導】個に応じた指導を行い、主体的に学習する態度を育成する。 →進路指導部や教科担当と連携して、個に応じた指導ができた。しかし、生徒のモチベーションや希望進路の難易度等に大きな差があり、すべての生徒に十分な指導ができたとは言えない状況である。主体性の育成についても、生徒によって大きな差が生じた。意欲を高く持ち努力する生徒も少なからず存在したが、そうでない生徒も多い。特に、進路決定後に大きくモチベーションを下げる生徒も例年以上に多かった。 【生活指導】自立を促し、正しい相互依存の関係を築こうとする態度を育てる。 →進路決定に至るプロセスを通じて、自立心を育成することができた。しかし、協調性を持って集団から照らして自己実現を果たしていく態度および主体性は十分に育成されていない生徒が多い。 【進路指導】全生徒の納得する進路実現を目指す。 →個に応じた適切な指導を行い、生徒の出願指導については適切であったと感じる。特に大学受験において、十分納得したうえで難関校に挑戦した生徒については、その経験を通して大きな成長が窺えた。しかし、一部の保護者より面談の機会が不十分という指摘があったことから、学校側の認識とはギャップがある可能性がある。	【学習指導】 →生徒の実態と学習に対するモチベーションに例年以上に大きな差があり、指導上困難に感じることも多かった。今後学力向上を効率的に行うためには、進路希望に応じてコース分けを行うなどの工夫も検討する余地がある。また、学力を育むためには教科担当者や進路指導部との連携が必要不可欠である。こまめな情報共有と、目標のすり合わせを今後も継続していきたい。 【生活指導】 →多様な生徒が在籍する場合、集団指導と個別指導をバランスよく行うことが大切であると感じた。特に、3学年は選択科目が多く、また、LHR等でも進路指導に多くの時間が割かれる。少ない集団指導の機会を上手に使うことが重要である。 【進路指導】 →面談の機会を多くとり、生徒だけでなく保護者も納得する進路指導を行う必要がある。また、生徒は進路決定に際し様々な可能性を考えていない場合が多い。出願指導については早期から徹底して行っていきたい。